

意見伺い

[平成21年度設置]

計画の区分：研究科以外の教育研究上の基本となる組織の設置

九州大学大学院統合新領域学府

【意見伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 九州大学
平成22年5月1日現在

作成担当者

総務部法令審議室法規係

カリチョウ ニシムラ マサル
係長 西村 大

電話番号 092-642-2108

(夜間) 092-642-2108

F A X 092-642-2113

e-mail syshoki@jimu.kyushu-u.ac.jp

工学部等事務部総務課庶務係

カリイン サトウ シンイチロウ
係員 佐藤 伸一郎

電話番号 092-802-3857

F A X 092-802-2712

e-mail shi-sato@jimu.kyushu-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に
()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科(通信教育課程)」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	8
3	施設・設備の整備状況, 経費	18
4	既設大学等の状況	20
5	教員組織の状況	27
6	留意事項に対する履行状況等	41
7	その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 九州大学

(2) 大学名

九州大学

(3) 大学の位置

〒812-8581
福岡県福岡市東区箱崎6丁目10番1号

〒819-0395
福岡県福岡市西区大字元岡744番地

(〒812-8581
福岡県福岡市東区箱崎6丁目10番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
学長	(ア리카ワ セツオ) 有川節夫 (平成20年10月1日)		
学府長		(シオツグ キョアキ) 塩次喜代明 (平成21年4月1日)	学府長に就任 平成21年4月1日 (21)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)
平成22年度に報告する内容 → (22)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の博士後期課程の場合(平成22年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
統合新領域学府 ユーザ一感性学専攻 修士(感性学) 修士(芸術工学) 修士(工学)	年 2	人 30	人 60	基礎となる学部等 教育学部、医学部、工学部、 芸術工学部、農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度			平均入学定員 超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
A 入学定員	(-) 30	(-) 30	(-) -	1.25	
志願者数	(21) 60	(18) 70	(-) -		
受験者数	(20) 57	(18) 68	(-) -		
合格者数	(12) 34	(10) 44	(-) -		
B 入学者数	(12) 33	(9) 42	(-) -		
入学定員超過率 B/A	(-) 1.1	(-) 1.4	(-) -		

- (注) ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度			備考
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
1年次	[2] 37	[5] 42	[-] -	平成21年度 入学 33名(うち留学生1名) 転学 4名(うち留学生1名)
2年次	/	[2] 37	[-] -	
3年次	/	/	[-] -	
計	[2] 37	[7] 79	[-] -	

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成21年度	計 [0] 0	(累積)計 [1] 33	[0%] 0%
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 33人	
	(主な退学理由)		
平成22年度	計 [0] 0	(累積)計 [6] 75	[0%] 0%
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 33人	
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 42人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	平成24年度 人	
(主な退学理由)			

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の博士後期課程の場合(平成22年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 修士(オートモーティブサイエンス) 修士(学術) 修士(工学)	2年	21人	42人	基礎となる学部等 経済学部、工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均入学定員超過率	備考
		人	人	人		
A	入学定員	(-) 21	(-) 21	(-) -	1.13	
	志願者数	(-) 31	(1) 60	(-) -		
	受験者数	(-) 30	(1) 55	(-) -		
	合格者数	(-) 26	(0) 31	(-) -		
B	入学者数	(-) 26	(0) 22	(-) -		
	入学定員超過率 B/A	(-) 1.23	(-) 1.04	(-) -		

- (注) ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備考
1年次	[8] 26	[3] 22	[-] -		
2年次	/	[8] 26	[-] -		
3年次	/	/	[-] -		
計	[8] 26	[11] 48	[-] -		

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成21年度	計 [0] 0	(累積)計 [8] 26	[0 %] 0%
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 26人	
	(主な退学理由)		
平成22年度	計 [0] 0	(累積)計 [11] 48	[0 %] 0%
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 26人	
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 22人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	平成24年度 人	
(主な退学理由)			

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の博士後期課程の場合(平成22年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 博士(オートモーティブサイエンス) 博士(学術) 博士(工学)	3年	7人	21人	基礎となる学部等 経済学府、工学府、システム 情報科学府

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度			平均入学定員 超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
A 入学定員	(-)人 7	(-)人 7	(-)人 -	1.21倍	
志願者数	(6)人 10	(5)人 9	(-)人 -		
受験者数	(6)人 10	(5)人 9	(-)人 -		
合格者数	(5)人 9	(4)人 8	(-)人 -		
B 入学者数	(5)人 9	(4)人 8	(-)人 -		
入学定員超過率 B/A	(-)人 1.28	(-)人 1.14	(-)人 -		

- (注) ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度			備考
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
1年次	[1]人 8	[2]人 8	[-]人 -	平成21年度 4月入学 8名(うち留学生1名) 10月入学 1名(うち留学生1名)
2年次	/	[1]人 8	[-]人 -	
3年次	/	/	[-]人 -	
計	[1]人 8	[3]人 16	[-]人 -	

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成21年度	計 [1] 1	(累積)計 [2] 9	[50%] 11.1%
	うち平成21年度入学者 1人	うち平成21年度 9人	
	(主な退学理由) 九州大学の他学府への転学府		
平成22年度	計 [1] 1	(累積)計 [4] 17	[25%] 5.9%
	うち平成21年度入学者 1人	うち平成21年度 9人	
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 8人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 [] -	(累積)計 [] -	[%] -%
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	平成24年度 人	
(主な退学理由)			

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<ユーザー感性学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	科学の統合方法論	1前	1			2						留意事項を踏まえ科目を追加 (22) [担当 樋口重和 (教授) 當真千賀子 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)]
専攻共通科目	特別研究 (1)	1前・後	2			10	6 4					科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 金亮奎 (准教授) 曾我部春香 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 金 (合) (22) 曾我部 : 合 (22)]
	特別研究 (2)	2前・後	4			10	6 4					科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 金亮奎 (准教授) 曾我部春香 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 金 (合) (22) 曾我部 : 合 (22)]
	感性科学概論	1前		2		3	1					
	感性コミュニケーション概論	1前		2		4	2			1		
	感性価値クエーション概論	1前		2		3	3	1		1		
	1-ザ-感性学PTL (1)	1前		2		3	1					
	1-ザ-感性学PTL (2)	1前		2		4	2			1		
	1-ザ-感性学PTL (3)	1前		2		3	3	1		1		
	1-ザ-感性学PTL (4)	1後		2		3	1				1	
	1-ザ-感性学PTL (5)	1後		2		4	2				1	
1-ザ-感性学PTL (6)	1後		2		3	3	1		1			
インターンシップ	1前・後		2		10	6	1			2		
コース専門科目	感性人類学	1前		2		1						
	人間発達学	1後		2								
		1後										
	心理物理学	1前		2		1						教育効果を考慮し後期に開講 (22)
	感覚生理心理学	1前		2		1						
	感情生理心理学	1後		2		1						
	適応行動論	1後		2		1						
	感性生理学	1前		2			1					
		1後										
	感性心理学	1前		2								教育効果を考慮し後期に開講 (22)
	美学	1後		2								
	1後											
感性哲学	1前		2								教育効果を考慮し後期に開講 (21)	
感覚生理心理学演習	1前		2		1	1						
感情生理心理学演習	1後		2		1	1						

コース 専門科目	生涯発達心理学	1前	2	1					
	認知体験過程論	1前	2	1					
	異文化間コミュニケーション論	1後	2		1				
	感性表現論	2前	2	1					
	実践子ども学	1前	2	1					
	現代子ども文化論	1前	2		1				
	小児家族看護学	1後	2		1				
	フィールド・ライフ・スペースリスト論	1後	2	1					
	小児・家族コミュニケーション演習	2前	2		1				
	ファシリテーション演習	1前	2						
	実践形成型フィールドワーク演習	2前	2	1					
	創造的ディスカッション演習	1後	2	1					
	次世代感性産業論	1前	2	1					
	ブランド価値創成論	1前	2	1					
	情報価値編集論	1前	2		1				
	関係のデザイン論	1前	2	1					
	景観価値形成論	1後	2		1				
	自然環境価値形成論	1後	2				1		
	地域文化デザイン論	1後	2			1			
	ケリカル価値評価論	1後	2	1	1				
	プロジェクトマネジメント論	2前	2						
	感性価値認知論	2前	2						
		2後							
	ユーザー参加型デザイン論	2前	2						教育効果を考慮し後期に開講 (22)
感性価値抽出論	1後	2							
感性マーケティング論	1後	2							

- (注) ・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 ・授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	47	0	49	3	47	0	50	
				[1]	[0]	[0]	[1]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<オートモーティブサイエンス専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 府 共 通 科 目	科学の統合方法論	1前	1			1						留意事項を踏まえ科目を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)]
	オートモーティブサイエンス概論	1前	1									科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)]
専 攻 共 通 科 目	インターンシップ	1・2通	3			10 9 8	7 6 7					平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)]
	オートモーティブサイエンス演習 I	1前		2		7 9 8	7 7 6					平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「合」 (22)]
	オートモーティブサイエンス演習 II	1後		2		7 9 8	7 7 6					平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「合」 (22)]
	オートモーティブサイエンス演習 III	2前		2		7 9 8	7 7 6					平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「合」 (22)]
	オートモーティブサイエンス演習 IV	2後		2		7 9 8	7 7 6					平成21年4月1日より教授就任のため (21)
	経営管理演習 I	1前		2			1					
	経営管理演習 II	1後		2			1					
	経営管理演習 III	2前		2			1					
経営管理演習 IV	2後		2			1						

	自動車情報計測制御実習	1後		2		1	3				専門科目の充実を図るため科目を追加 (22)	
	自動車電子デバイス特論	1前		2		1					担当 内山誠 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)	
分野 専門科目	人間科学分野											
	オートモティブ人間科学概論	1前		2		1	1					
	エクステリア・エア・デザイン	1前		2								
	インテリア・インターフェース・デザイン	1後		2								
	自動車感性評価学	2前		2		1						
	交通心理学	1前		2		1						
	自動車安全文化論	1後		2		1						
	自動車応用利用論	2前		2								
	車と人間	1前		2								
	海外都市計画	1後		2								
	交通情報・誘導学	1後		2			1					
	交通流工学	1前		2			1					
	オートモティブ環境科学Ⅱ	2前		2								
	社会科学分野											
	自動車産業概論	1前		2								
	経営管理特論	1前		2		1						
	企業戦略マネジメント	1後		2		1						
			2前									
	イノベーション・マネジメント	1後		2								教育効果を考慮し2年前期に開講 (22)
		1後										
プロダクション・マネジメント	1前		2								教育効果を考慮し後期に開講 (21)	
市場システム分析	1後		2									
		2後										
グローバル経営	2前		2								教育効果を考慮し後期に開講 (22)	
エコロジーの経済	2前		2			1						
交通の経済学	2後		2									
産業法規特論	2前		2									

- (注) ・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え直し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 ・授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え直し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
3	60	0	63	4	62	0	66	
				[1]	[2]	[0]	[3]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

2 授業科目の概要

<オートモーティブサイエンス専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	上級国際コミュニケーション演習	1・2・3通		2			10 9 8	7 6 7				科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)] 平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)] 平成21年4月1日より教授就任のため (21) 科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)] 平成21年4月1日より教授就任のため (21)
	リサーチ・ワークショップ	1・2・3通		2			10 9 8	7 6 7				科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 共に「可」 (22)] 平成21年4月1日より教授就任のため (21)
	インターンシップ オートモーティブサイエンス特論	1・2・3通 1前		3 1				10 9 8	7 6 7			
特別研究	オートモーティブサイエンス特別研究A	1~3通		12			3 2	2 2				科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 安田琢磨 (准教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 合 (22)] 平成21年4月1日より教授就任のため (21)
	オートモーティブサイエンス特別研究B	1~3通		12			3					科目の充実を図るため教員を追加 (22) [担当 内山誠 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 合 (22)]
	オートモーティブサイエンス特別研究C	1~3通		12			2 4	3				専任教員未配置のため (21) (22)
	オートモーティブサイエンス特別研究D	1~3通		12			1	1				
	オートモーティブサイエンス特別研究E	1~3通		12				1				
	オートモーティブサイエンス特別研究F	未開講 1~3通		12								

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、

「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）

- ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	8	0	10	2	7	0	9	
				[0]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	

(注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	オートモーティブサイエンス特別研究F	12	1~3通	専門	選択	専任教員未配置のため
2						
3						

- (注) ・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程完成時までに専任教員を配置予定。
 また、平成22年度入学者に、「オートモーティブサイエンス特別研究F」を履修予定の学生がいなかったため、学生への特段の周知は行っていない。

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.10}$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(箱崎地区)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	223,618㎡	0㎡	0㎡	223,618㎡			
	運動場用地	53,112㎡	0㎡	0㎡	53,112㎡			
	小 計	276,731㎡	0㎡	0㎡	276,731㎡			
	そ の 他	136,250㎡	0㎡	0㎡	136,250㎡			
	合 計	412,981㎡	0㎡	0㎡	412,981㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		246,852㎡	0㎡	0㎡	246,852㎡			
		(246,852㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(246,852㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		123室	120室	1,157室	12室 (補助職員 6人)	3室 (補助職員 3人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		統合新領域学府ユーザー感性学専攻(修士課程)			19 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	冊	種	点	点	点			
	統合新領域学府 ユーザー感性学専 攻(修士課程)	982,945 [419,489] (982,945 [419,489])	30,945 [13,009] (30,945 [13,009])	48,276 [40,115] (48,276 [40,115])	33,175 (33,175)	139 (139)	5,641 (5,641)	
計	982,945 [419,489] (982,945 [419,489])	30,945 [13,009] (30,945 [13,009])	48,276 [40,115] (48,276 [40,115])	33,175 (33,175)	139 (139)	5,641 (5,641)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		13,668㎡	824		1,269,167			
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,581	野球場1面・400mトラック1面・25mプール・一般運動場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円
	共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			国費による					

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(伊都地区)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	218,518㎡	0㎡	0㎡	218,518㎡			
	運動場用地	174,457㎡	0㎡	0㎡	174,457㎡			
	小 計	392,975㎡	0㎡	0㎡	392,975㎡			
	そ の 他	1,313,802㎡	0㎡	0㎡	1,313,802㎡			
	合 計	1,706,777㎡	0㎡	0㎡	1,706,777㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	197,863㎡ (197,863㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	197,863㎡ (197,863㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	205室	384室	353室	14室 (補助職員 6人)	11室 (補助職員 5人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員2名を新規採用のため(22)		
	統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻			17 15 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				点
	統合新領域学府 オートモーティブサイエンス 専攻	422,610 [242,506] (422,610 [242,506])	8,972 [5,435] (8,972 [5,435])	48,276 [40,115] (48,276 [40,115])	4,750 (4,750)	139 (139)	5,641 (5,641)	
	計	422,610 [242,506] (422,610 [242,506])	8,972 [5,435] (8,972 [5,435])	48,276 [40,115] (48,276 [40,115])	4,750 (4,750)	139 (139)	5,641 (5,641)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	11,133㎡		740		1,340,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,449		弓道場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		国費による						

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	九州大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人文科学府							平成12年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号	
人文基礎専攻									
修士課程	2	16		32	修士（文学）	0.34			
博士後期課程	3	8		24		0.58			
歴史空間論専攻					博士（文学）				
修士課程	2	20		40		0.60			
博士後期課程	3	10		30		0.50			
言語・文学専攻									
修士課程	2	20		40		0.85			
博士後期課程	3	10		30		0.96			
比較社会文化学府							平成12年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地	
日本社会文化専攻					修士（比較社会 文化）	1.37			
修士課程	2	24		48					
博士後期課程	3	20		60	修士（理学）	1.01			
国際社会文化専攻					博士（比較社会 文化）	0.74			
修士課程	2	26		52					
博士後期課程	3	20		60	博士（理学）	0.43			
人間環境学府							平成12年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号	
都市共生デザイン専攻					修士（人間環境 学）	1.02			
修士課程	2	20		40					
博士後期課程	3	5		15	修士（文学）	0.93			
人間共生システム専攻					修士（教育学）		〃		
修士課程	2	11		22	修士（心理学）	0.63			
博士後期課程	3	9		27	修士（工学）	1.69			
行動システム専攻							〃		
修士課程	2	17		34	博士（人間環境 学）	1.14			
博士後期課程	3	10		30		0.93			
教育システム専攻					博士（文学）		平成17年度		
修士課程	2	19		38	博士（教育学）	0.86			
博士後期課程	3	9		27	博士（心理学）	0.69			
空間システム専攻					博士（工学）		平成12年度		
修士課程	2	28		56	（実践臨床心 理学専攻は臨 床心理士（専 門職））	1.40			
博士後期課程	3	7		21		0.61			
実践臨床心理学専攻							平成17年度		
専門職学位課程	2	30		60		0.99			

法学府 法政理論専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	72 17	72 17	修士（法学） 博士（法学）	0.31 0.41	平成22年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
法務学府 実務法学専攻 専門職学位課程	3	80	280	法務博士（専門 職）	1.01	平成16年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
経済学府 経済工学専攻 修士課程 博士後期課程 経済システム専攻 修士課程 博士後期課程 産業マネジメント専攻 専門職学位課程	2 3 2 3 2 3 2	20 10 27 14 45	40 30 54 42 90	修士（経済学） 博士（経済学） （産業マネジメ ント専攻は経営 修士（専門職） ）	0.80 0.50 0.83 0.61 0.97	平成12年度 平成15年度 "	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 19番1号
理学府 物理学専攻 修士課程 博士後期課程 化学専攻 修士課程 博士後期課程 地球惑星科学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3 2 3 2 3	41 14 62 19 41 14	82 42 124 57 82 42	修士（理学） 博士（理学）	0.94 0.57 0.99 0.76 0.93 0.63	平成20年度 "	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号
数理学府 数理学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	54 20	108 66	修士（数理学） 修士（技術数理 学） 博士（数理学） 博士（機能数理 学）	1.11 0.68	平成12年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地
システム生命科学府 システム生命科学専攻 博士課程	5	54	238	修士（システム 生命科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学 ） 博士（システム 生命科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（情報科学 ）	1.43	平成15年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号

医学系学府								福岡県福岡市	
医学専攻				修士（医科学）		平成20年度		東区馬出3丁目	
博士課程	4	107	321	修士（看護学）	1.10			1番1号	
医科学専攻				修士（保健学）		平成15年度			
修士課程	2	20	40		0.82				
保健学専攻				博士（医学）					
修士課程	2	20	40	博士（看護学）	1.17	平成19年度			
博士後期課程	3	10	20	博士（保健学）	1.10	平成21年度			
医療経営・管理学専攻						平成13年度			
専門職学位課程	2	20	40	（医療経営・管理学専攻は医療経営・管理学修士（専門職））	1.05				
歯学府				博士（歯学）		平成12年度		福岡県福岡市	
歯学専攻				博士（臨床歯学）				東区馬出3丁目	
博士課程	4	43	172	博士（学術）	1.06			1番1号	
薬学府				修士（創薬科学）		平成22年度		福岡県福岡市	※平成22年度より学生募集停止（医療薬学専攻、創薬科学専攻）
創薬科学専攻								東区馬出3丁目	
修士課程	2	55	55	博士（薬学）	1.09			1番1号	
医療薬科学専攻						平成12年度			
修士課程	2	-	-		-				
博士後期課程	3	14	42		0.87				
創薬科学専攻						"			
修士課程	2	-	-		-				
博士後期課程	3	12	36		0.80				
工学府						平成12年度		福岡県福岡市	※平成22年度より学生募集停止（機械科学専攻、知能機械システム専攻）
物質創造工学専攻				修士（工学）	2.09			西区元岡	
修士課程	2	21	42		1.00			744番地	
博士後期課程	3	10	30	博士（工学）					
物質プロセス工学専攻						"			
修士課程	2	19	38		1.86				
博士後期課程	3	9	27		0.96				
材料物性工学専攻						"			
修士課程	2	19	38		2.02				
博士後期課程	3	7	23		0.90				
化学システム工学専攻						"			
修士課程	2	21	42		1.90				
博士後期課程	3	10	30		0.93				
建設システム工学専攻						"			
修士課程	2	17	34		1.46				
博士後期課程	3	8	24		0.41				
都市環境システム工学専攻						"			
修士課程	2	19	38		1.49				

博士後期課程	3	8		25		0.64		
海洋システム工学専攻							〃	
修士課程	2	17		34		1.40		
博士後期課程	3	8		24		0.41		
地球資源システム工学専攻							〃	
修士課程	2	17		34		1.43		
博士後期課程	3	8		24		0.58		
エネルギー量子工学専攻							〃	
修士課程	2	25		50		1.18		
博士後期課程	3	12		36		0.46		
機械工学専攻							平成22年度	
修士課程	2	62		62		1.08		
博士後期課程	3	19		19		0.84		
水素エネルギーシステム専攻							〃	
修士課程	2	30		30		1.00		
博士後期課程	3	9		9		1.00		
機械科学専攻							平成12年度	
修士課程	2	-		-		-		
博士後期課程	3	-		-		-		
知能機械システム専攻							〃	
修士課程	2	-		-		-		
博士後期課程	3	-		-		-		
航空宇宙工学専攻							〃	
修士課程	2	26		52		1.32		
博士後期課程	3	12		37		0.61		
芸術工学府					修士（芸術工学）			福岡県福岡市
芸術工学専攻					修士（デザインスト		平成15年度 （平成16年4 月学生受入）	南区塩原4丁目
修士課程	2	92		184	ラジェター）	1.25		9番1号
博士後期課程	3	25		75	博士（芸術工学）	0.85		
デザインストラテジー専攻					博士（工学）			
修士課程	2	28		56		1.56	平成18年度	
博士後期課程	3	5		15		1.53	平成20年度	
システム情報科学府					修士（情報科学		平成21年度	福岡県福岡市
情報学専攻					）			西区元岡
修士課程	2	40		80	修士（理学）	1.12		744番地
博士後期課程	3	14		28	修士（工学）	0.53		
情報知能工学専攻					修士（学術）		平成21年度	
修士課程	2	45		90	博士（情報科学	1.23		
博士後期課程	3	15		30	）	0.53		
電気電子工学専攻					博士（理学）		平成21年度	
修士課程	2	55		110	博士（工学）	1.42		
博士後期課程	3	16		32	博士（学術）	0.50		

総合理工学府							平成12年度	福岡県春日市	
量子プロセス理工学専攻								春日公園6丁目	
修士課程	2	37		74	修士(理学)	1.63		1番地	
博士後期課程	3	14		45	修士(工学)	0.57			
物質理工学専攻					修士(学術)				
修士課程	2	37		74		1.61			
博士後期課程	3	14		45		0.62			
先端エネルギー理工学専攻					博士(理学)				
修士課程	2	34		68	博士(工学)	1.07			
博士後期課程	3	12		40	博士(学術)	0.38			
環境エネルギー工学専攻									
修士課程	2	26		52		1.26			
博士後期課程	3	9		30		0.47			
大気海洋環境システム学専攻									
修士課程	2	30		60		0.83			
博士後期課程	3	11		36		0.28			
生物資源環境科学府								福岡県福岡市	
資源生物科学専攻					修士(農学)		平成22年度	東区箱崎6丁目	※平成22年度より学生募集停止
修士課程	2	50		50		0.94		10番1号	(生物資源開発管理学専攻、植物資源科学専攻、生物機能科学専攻、動物資源科学専攻、農業資源経済学専攻、生産環境科学専攻、森林資源科学専攻、遺伝子資源工学専攻)
博士後期課程	3	19		19	博士(農学)	0.78			
環境農学専攻									
修士課程	2	75		75		0.77			
博士後期課程	3	27		27		0.59			
農業資源経済学専攻									
修士課程	2	13		13		0.84			
博士後期課程	3	5		5		0.80			
生命機能科学専攻									
修士課程	2	106		106		0.83			
博士後期課程	3	12		12		0.41			
生物産業創成専攻									
博士後期課程	3	14		14		1.21			
生物資源開発管理学専攻							平成12年度		
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			
植物資源科学専攻									
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			
生物機能科学専攻									
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			
動物資源科学専攻									
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			

農業資源経済学専攻 修士課程	2	-					''		
博士後期課程	3	-							
生産環境科学専攻 修士課程	2	-					''		
博士後期課程	3	-							
森林資源科学専攻 修士課程	2	-					''		
博士後期課程	3	-							
遺伝子資源工学専攻 修士課程	2	-					''		
博士後期課程	3	-							
統合新領域学府 ユーザ感性学専攻 修士課程	2	30		60	修士(感性学) 修士(芸術工学) 修士(工学)	1.31	平成21年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地	
オートモーティブサイエンス専攻 修士課程	2	21		42	修士(工学) 修士(オートモーティブサイエンス) 修士(学術)	1.13			
博士後期課程	3	7		14	博士(工学) 博士(学術)	1.14			
文学部 人文学科	4	160		640	学士(文学) 学士(学術)	1.03	平成12年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
教育学部	4	50		200	学士(教育学) 学士(学術)	1.08	昭和24年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
法学部	4	200		800	学士(法学) 学士(学術)	1.02	昭和24年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目19番1号	
経済学部 経済・経営学科	4	150	3年次 10	620	学士(経済学) 学士(学術)	1.06	平成12年度	福岡県福岡市東区 東区箱崎6丁目 19番1号	
経済工学科	4	90	3年次 10	380		1.10	昭和52年度		
理学部 物理学科	4	59		236	学士(理学)	1.11	昭和24年度	福岡県福岡市 東区箱崎6丁目 10番1号	
化学科	4	67		268	学士(学術)	1.05	''		
地球惑星科学科	4	48		192		1.04	平成2年度		
数学科	4	54	3年次 5	226		1.07	昭和24年度		
生物学科	4	49		196		1.11	''		
医学部 医学科	6	110		615	学士(医学) 学士(生命科学)	1.01	昭和24年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
生命科学科	4	12		48	学士(看護学)	1.22	平成19年度		
保健学科	4	137		548	学士(保健学) 学士(学術)	1.05	平成14年度 (平成15年4 月学生受入)		

歯学部 歯学科	6	55	3年次 5	350	学士（歯学）	1.04	昭和42年度	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
薬学部 創薬科学科 臨床薬学科	4 6	50 30		200 150	学士（創薬科学） 学士（薬学） 学士（学術）	1.08 1.05	平成18年度 "	福岡県福岡市 東区馬出3丁目 1番1号	
工学部 建築学科 電気情報工学科 物質科学工学科 地球環境工学科 エネルギー科学科 機械航空工学科	4 4 4 4 4 4	60 158 168 150 99 169		240 632 672 600 396 676	学士（工学） 学士（学術）	1.06 1.06 1.08 1.03 1.05 1.07	昭和29年度 平成8年度 平成9年度 平成10年度 " 平成11年度	福岡県福岡市 西区元岡 744番地	
芸術工学部 環境設計学科 工業設計学科 画像設計学科 音響設計学科 芸術情報設計学科	4 4 4 4 4	38 48 38 38 40		152 192 152 152 160	学士（芸術工学） 学士（学術）	1.07 1.04 1.05 1.07 1.04	平成15年度	福岡県福岡市 南区塩原4丁目 9番1号	H16.4 学生受入
農学部 生物資源環境学科	4	229		916	学士（農学） 学士（学術）	1.05	平成10年度	福岡県福岡市東区 箱崎6丁目10番1号	

（注）1 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。

（大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

2 認可申請書の様式第2号（その1）に準じて作成してください。

3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間（学年進行中の場合は、設置後経過した年数分）における入学定員超過率の平均を記入してください。

入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

なお、学生募集停止中の学部等については、「-」を記入するとともに、「備考」欄に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<統合新領域学府 ユーザー感性学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	綿貴 茂喜	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性科学概論 ユーザ-感性学PTL(1) ユーザ-感性学PTL(4) インターシッブ 感覚生理心理学 感情生理心理学						
専任	教授	森 周司	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性科学概論 ユーザ-感性学PTL(1) ユーザ-感性学PTL(4) インターシッブ 心理物理学						
専任	教授	樋口 重和	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性科学概論 ユーザ-感性学PTL(1) ユーザ-感性学PTL(4) インターシッブ 感性人類学 適応行動論 感覚生理心理学演習 感情生理心理学演習					特別研究(1) 特別研究(2) 感性科学概論 ユーザ-感性学PTL(1) ユーザ-感性学PTL(4) インターシッブ 感性人類学 適応行動論 感覚生理心理学演習 感情生理心理学演習 科学の統合方法論	平成22年4月から 留意事項を踏まえ 担当科目を追加(22) 平成22年1月 教員審査済
専任	教授	丸野 俊一	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL(2) ユーザ-感性学PTL(5) インターシッブ 認知体験過程論 創造的ディスカッション演習						
専任	教授	南 博文	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL(2) ユーザ-感性学PTL(5) インターシッブ チャイルド・ライフ・スペシャリス ト論						
専任	教授	藤枝 守	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL(2) ユーザ-感性学PTL(5) インターシッブ 感性表現論						
専任	教授	當眞(吉川) 千賀子	平成21年4月	特別研究(1) 特別研究(2) 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL(2) ユーザ-感性学PTL(5) インターシッブ 生涯発達心理学 実践子ども学 実践形成型フィールドワーク 演習			當眞 千賀子		特別研究(1) 特別研究(2) 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL(2) ユーザ-感性学PTL(5) インターシッブ 生涯発達心理学 実践子ども学 実践形成型フィールドワーク 演習 科学の統合方法論	本人の申し出による氏名変更 (21) 平成22年4月から 留意事項を踏まえ 担当科目を追加(22) 平成22年1月 教員審査済

専任	教授	森田 昌嗣	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ 関係のデザイナ論 クオリティ価値評価論						
専任	教授	清須美 匡洋	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ ブランド価値創成論						
専任	教授	坂口 光一	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ 次世代感性産業論						
専任	准教授	金 亮奎	平成21年4月	感性科学概論 ユーザ-感性学PTL（１） ユーザ-感性学PTL（４） インターシッパ 感性生理学 感覚生理心理学演習 感情生理心理学演習					特別研究（１） 特別研究（２） 感性科学概論 ユーザ-感性学PTL（１） ユーザ-感性学PTL（４） インターシッパ 感性生理学 感覚生理心理学演習 感情生理心理学演習	平成22年4月から 教育課程の充実のため 担当科目を追加（22） 平成22年1月 教員審査済
専任	准教授	坂元 一光	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL（２） ユーザ-感性学PTL（５） インターシッパ 異文化間コミュニケーション論 現代子ども文化論						
専任	准教授	濱田 裕子	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL（２） ユーザ-感性学PTL（５） インターシッパ 小児家族看護学 小児・家族コミュニケーション 演習						
専任	准教授	池田 美奈子	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ 情報価値編集論						
専任	准教授	樋口 明彦	平成21年4月	特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ 景観価値形成論						
専任	准教授	曾我部 春香	平成21年4月	感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ クオリティ価値評価論					特別研究（１） 特別研究（２） 感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ クオリティ価値評価論	平成22年4月から 教育課程の充実のため 担当科目を追加（22） 平成22年1月 教員審査済
専任	講師	田北 雅裕	平成21年4月	感性価値クレーション概論 ユーザ-感性学PTL（３） ユーザ-感性学PTL（６） インターシッパ 地域文化デザイナ論						
専任	助教	三島（渡辺） 美佐子	平成21年4月	感性コミュニケーション概論 ユーザ-感性学PTL（２） ユーザ-感性学PTL（５） インターシッパ						

専任	助教	佐藤 剛史	平成21年4月	感性価値クエーション概論 ユーザ-感性学PTL(3) ユーザ-感性学PTL(6) インターシップ 自然環境価値形成論						
兼任	講師	橋彌 和秀	平成21年4月	人間発達学						
兼任	講師	三浦 佳世	平成21年4月	感性心理学						
兼任	講師	東口 豊	平成21年4月	美学						
兼任	講師	都甲 康至	平成21年4月	プロダクトマネジメント論						
兼任	講師	佐伯 謙吾	平成21年4月	プロダクトマネジメント論						
兼任	講師	田村 良一	平成21年4月	感性価値認知論						
兼任	講師	平井 康之	平成21年4月	ユーザ-参加型デザイン論						
兼任	講師	小田部 胤久	平成21年4月	感性哲学						
兼任	講師	目黒 実	平成21年4月	実践子ども学 チャイルド・ライフ・スペシャリスト論						
兼任	講師	藤井 あけみ	平成21年4月	チャイルド・ライフ・スペシャリスト論						
兼任	講師	石田 智美	平成21年4月	チャイルド・ライフ・スペシャリスト論						
兼任	講師	加留部 貴行	平成21年4月	ファシリテーション演習						
兼任	講師	徳永 眞木子	平成21年4月	感性価値抽出論						
兼任	講師	小阪 裕司	平成21年4月	感性マーケティング論						

(注)・認可申請書の様式第3号(その2の2)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
14	0	14	0	15	1	16	0	
(14)	(0)	(14)	(0)	[1]	[1]	[2]	[0]	

(注)・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	なし		
2			
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

5 教員組織の状況

<統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	石原 達己	平成21年4月1日	自動車用触媒科学 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	教授	山木 準一	平成21年4月1日	エネルギー材料科学 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	教授	村瀬 英一	平成21年4月1日	オートモーティブダイミクス概論 自動車動力源特論 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	教授	安倍 賢一	平成21年4月1日	オートモーティブダイミクス概論 自動車空気力学特論 自動車空気力学演習 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	教授	川邊 武俊	平成21年4月1日	オートモーティブ情報制御学概論 制御理論 計算機シミュレーション特論 自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						

専任	教授	塩次 喜代明	平成21年4月1日	経営管理特論 企業戦略マネジメント インターンシップ 経営管理演習Ⅰ 経営管理演習Ⅱ 経営管理演習Ⅲ 経営管理演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習 インターンシップ						
専任	教授	井上 卓見	平成21年4月1日	オートモティブダイミクス概論 構造・動力学特論 構造・動力学演習 インターンシップ オートモティブサイエンス演習Ⅰ オートモティブサイエンス演習Ⅱ オートモティブサイエンス演習Ⅲ オートモティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	教授	志堂寺 和則	平成21年4月1日	オートモティブ人間科学概論 自動車感性評価学 交通心理学 自動車安全文化論 インターンシップ オートモティブサイエンス演習Ⅰ オートモティブサイエンス演習Ⅱ オートモティブサイエンス演習Ⅲ オートモティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	准教授	田中 敬二	平成21年4月1日	自動車用高分子材料学 インターンシップ オートモティブサイエンス演習Ⅰ オートモティブサイエンス演習Ⅱ オートモティブサイエンス演習Ⅲ オートモティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習	教授					平成21年4月1日から教授昇任のため(21)
専任	准教授	加藤 喜峰	平成21年4月1日	オートモティブ先端材料科学概論 インターンシップ オートモティブサイエンス演習Ⅰ オートモティブサイエンス演習Ⅱ オートモティブサイエンス演習Ⅲ オートモティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	准教授	袈裟丸 勝巳	平成21年4月1日	オートモティブ情報制御学概論 自動車パワーエレクトロニクス特論 自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習 インターンシップ オートモティブサイエンス演習Ⅰ オートモティブサイエンス演習Ⅱ オートモティブサイエンス演習Ⅲ オートモティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						

専任	准教授	石原 亨	平成21年4月1日	オートティブ情報制御学概論 組込みハードウェア特論 自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習 インターンシップ オートティブサイエンス演習Ⅰ オートティブサイエンス演習Ⅱ オートティブサイエンス演習Ⅲ オートティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	准教授	中西 恒夫	平成21年4月1日	オートティブ情報制御学概論 組込みソフトウェア特論 自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習 インターンシップ オートティブサイエンス演習Ⅰ オートティブサイエンス演習Ⅱ オートティブサイエンス演習Ⅲ オートティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	准教授	外井 哲志	平成21年4月1日	オートティブ人間科学概論 交通情報・誘導学 交通流工学 インターンシップ オートティブサイエンス演習Ⅰ オートティブサイエンス演習Ⅱ オートティブサイエンス演習Ⅲ オートティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
専任	准教授	藤田 敏之	平成21年4月1日	エコロジーの経済 インターンシップ オートティブサイエンス演習Ⅰ オートティブサイエンス演習Ⅱ オートティブサイエンス演習Ⅲ オートティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習						
兼任	講師	古君 修	平成21年4月1日	オートティブ先端材料科学概論 自動車用鉄鋼材料学						
兼任	講師	長村 利彦	平成21年4月1日	オートティブ先端材料科学概論	専任	准教授	安田 琢磨	平成22年4月1日	オートティブ先端材料科学概論 自動車用表示材料特論 インターンシップ オートティブサイエンス演習Ⅰ オートティブサイエンス演習Ⅱ オートティブサイエンス演習Ⅲ オートティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習	平成22年3月 長村教授退職のため 平成22年度より担当者の 変更(22) 及び 平成22年4月から 教育課程の充実を図る ため専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
兼任	講師	菊池 正夫	平成21年4月1日	オートティブ先端材料科学概論						
兼任	講師	東田 賢二	平成21年4月1日	塑性変形学						
兼任	講師	堀田 善治	平成21年4月1日	自動車用非鉄金属材料制御学						
兼任	講師	北條 純一	平成21年4月1日	セラミック材料物性学						
兼任	講師	近藤 良之	平成21年4月1日	オートティブデザイン概論 自動車強度学特論						

兼任	講師	野口 博司	平成21年4月1日	オートモティブ'デザイン'概論 高剛性自動車構造学特論						
兼任	講師	福田 晃	平成21年4月1日	オートモティブ'情報制御学概論 組み込みソフトウェア特論 自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習						
兼任	講師	江崎 哲郎	平成21年4月1日	オートモティブ'環境科学Ⅱ			三谷 泰浩	平成22年4月1日		平成22年3月 江崎教授退職のため 平成22年度より担当者の 変更 (21)
兼任	講師	和田 清	平成21年4月1日	制御理論						
兼任	講師	石井 明	平成21年4月1日	オートモティブ'人間科学概論 エクステリア・インテリアデザイン インテリア・インタフェースデザイン						
兼任	講師	角 知憲	平成21年4月1日	オートモティブ'人間科学概論						
兼任	講師	源田 悦夫	平成21年4月1日	インテリア・インタフェースデザイン						
兼任	講師	吉田 基樹	平成21年4月1日	ブランド・アクション・マネジメント						
兼任	講師	久原 正治	平成22年4月1日	グローバル経営						
兼任	講師	中野 博昭	平成21年4月1日	オートモティブ'先端材料科学概論						
兼任	講師	宮原 広郁	平成21年4月1日	自動車材料の接合および複合学						
兼任	講師	森上 修	平成21年4月1日	自動車動力源演習						
兼任	講師	木田 勝之	平成21年4月1日	自動車強度学特論						
兼任	講師	古川 浩	平成21年4月1日	オートモティブ'情報制御学概論 移動体通信特論						
兼任	講師	趙 世晨	平成21年4月1日	海外都市計画						
兼任	講師	尾方 義人	平成21年4月1日	インテリア・インタフェースデザイン						
兼任	講師	濱田 繁	平成22年4月1日	高剛性自動車構造学特論						
兼任	講師	草壁 克己	平成22年4月1日	オートモティブ'環境科学Ⅰ						
兼任	講師	東 大輔	平成21年4月1日	エクステリア・インテリアデザイン						
兼任	講師	磯 望	平成22年4月1日	自動車応用利用論						
兼任	講師	野口 幸弘	平成22年4月1日	自動車応用利用論						
兼任	講師	中村 奈良江	平成22年4月1日	自動車応用利用論						
兼任	講師	馬 昌珍	平成21年4月1日	モビリティ環境科学						
兼任	講師	星 正勝	平成21年4月1日	オートモティブ'情報制御学概論						
兼任	講師	廣田 正樹	平成21年4月1日	オートモティブ'情報制御学概論						
兼任	講師	岩野 浩	平成21年4月1日	オートモティブ'情報制御学概論						

兼任	講師	江口 孝彰	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	松村 利夫	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	大畠 明	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	小野 英一	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	井上 秀雄	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	室 英夫	平成21年4月1日	自動車センサーシステム特論						
兼任	講師	内山 誠	平成21年4月1日	自動車情報計測制御演習	専任	教授	内山 誠	平成22年4月1日	科学の統合方法論 自動車情報計測制御演習 自動車電子デバイス特論 インターンシップ オートモーティブサイエンス演習Ⅰ オートモーティブサイエンス演習Ⅱ オートモーティブサイエンス演習Ⅲ オートモーティブサイエンス演習Ⅳ 国際コミュニケーション演習	平成22年4月から 教育課程の充実を図るため 専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
兼任	講師	城戸 滋之	平成21年4月1日	自動車情報計測制御演習 自動車情報計測制御実習						
兼任	講師	渡辺 政彦	平成21年4月1日	自動車情報計測制御実習						
兼任	講師	宮崎 聖子	平成21年4月1日	車と人間						
兼任	講師	藤岡 豊	平成21年4月1日	イノベーションマネジメント						
兼任	講師	居城 克治	平成21年4月1日	自動車産業概論						
兼任	講師	田中 謙一郎	平成21年4月1日	市場システム分析						
兼任	講師	正司 健一	平成21年4月1日	交通の経済学						
兼任	講師	松田 一也	平成22年4月1日	産業法規特論						
兼任	講師	石川 雄章	平成21年4月1日	オートモーティブ 情報制御学概論						
兼任	講師	高橋 忠生	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス概論						
兼任	講師	渡邊 浩之	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス概論						
					兼任	講師	高野 明	平成22年4月1日	オートモーティブサイエンス概論	平成22年4月から 教育課程の充実のため 兼任教員を補充(22)

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

また、「専任教員採用等変更書（A-C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認 可 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助 手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助 手	
14	1	15	0	16	1	17	0	
(14)	(1)	(15)	(0)	[2]	[0]	[2]	[0]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、
「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の
計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	なし		
2			
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

5 教員組織の状況

<統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	石原 達己	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	教授	山木 準一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	教授	村瀬 英一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	安倍 賢一	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	川邊 武俊	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	教授	塩次 喜代明	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ						
専任	教授	井上 卓見	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究B						
専任	教授	志堂寺 和則	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究D						
専任	准教授	田中 敬二	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A		教授				平成21年4月1日から教授昇任のため(21)
専任	准教授	加藤 喜峰	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A						
専任	准教授	袈裟丸 勝巳	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	准教授	石原 亨	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						

専任	准教授	中西 恒夫	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C						
専任	准教授	外井 哲志	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究D						
専任	准教授	藤田 敏之	平成21年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究E						
					専任	教授	内山 誠	平成22年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究C	平成22年4月から 教育課程の充実のため 専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
					専任	准教授	安田 琢彦	平成22年4月1日	上級国際コミュニケーション演習 リサーチ・ワークショップ インターンシップ オートモーティブサイエンス特別研究A	平成22年4月から 教育課程の充実のため 専任教員を補充(22) 平成22年1月 教員審査済
兼任	講師	高橋 忠生	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス特論						
兼任	講師	渡邊 浩之	平成21年4月1日	オートモーティブサイエンス特論						
					兼任	講師	高野 明	平成22年4月1日	オートモーティブサイエンス特論	平成22年4月から 教育課程の充実のため 兼任教員を補充(22)

(注) ・認可申請書の様式第3号(その2の2)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」には、平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
12	3	15	0	13	3	16	0	
(11)	(3)	(14)	(0)	[1]	[0]	[1]	[0]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	なし		
2			
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (20年10月)	<p><ユーザ-感性学専攻 (M)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな科学のフロンティアを開拓し、また科学的な知を再編統合するために「統合新領域学府」を設置するとのことだが、オートモチブサイエンス専攻の教育上の効果も考慮し、両専攻にまたがる共通の科目を設けるなど科目編成を再考すること。 ・補正計画書に記載されている①3つの系、②基礎となる科目、③基盤を基にする科目を、教育課程やシラバス等に明確に反映させ、それらの位置づけが学生にわかるようにすること。 ・感性価値マネジメント系における「マネジメント」という用語の使い方が、ビジネス・経営学における用法と混同されるので、名称の改善が求められる。また、感性価値抽出論は、感性価値マネジメント系に属しているが、実際の講義内容はビジネス系となっているなど、各科目系への配属が不適切なものがあるので、改善すること。 <p><オートモチブサイエンス専攻 (M)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな科学のフロンティアを開拓し、また科学的な知を再編統合するために「統合新領域学府」を設置するとのことだが、ユーザ-感性学専攻の教育上の効果も考慮し、両専攻にまたがる共通の科目を設けるなど科目編成を再考すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、平成22年4月にオートモチブサイエンス専攻との共通科目を開講すべく、学府長及び各専攻の専攻長による協議を行っている。(21) ・学府長及び各専攻の専攻長による協議の結果、両専攻の修士1年生を対象に、両専攻の専任教員が担当する「科学の統合方法論」(学府共通科目)を新たに開講することとした。学府教授会における承認を得た後、平成22年1月に教員審査を受け、平成22年度から本科目を1年前期に開講した。(22) ・3コースに共通する「専攻共通科目」と、コース毎に開講する「コース専門科目」について、学生便覧及びホームページに示すと同時にオリエンテーションやプロジェクトチーム演習等の機会を使って常時学生への説明を図っている。また、個人相談窓口を設けて履修等の学生の質問に応える体制を取っている。(21) ・ご指摘を踏まえ、マネジメント系という表現を改め、「感性価値エバリュエーション(評価)系」とした。また、「感性価値抽出論」はマーケティングに関する授業であるため、「感性価値エバリュエーション(評価)系」に区分できると判断している。(21) ・ご指摘を踏まえ、平成22年4月にユーザ-感性学専攻との共通科目を開講すべく、学府長及び各専攻の専攻長による協議を行っている。(21) ・学府長及び各専攻の専攻長による協議の結果、両専攻の修士1年生を対象に、両専攻の専任教員が担当する「科学の統合方法論」(学府共通科目)を新たに開講することとした。学府教授会における承認を得た後、平成22年1月に教員審査を受け、平成22年度から本科目を1年前期に開講した。(22) 	

・「経営管理特論」を盛り込んだ科目群は「社会科学分野」というよりも狭い「経営管理分野」となっているため、適切な分野名称にするよう検討すること。

・社会科学分野では、自動車にまつわる経済学とともに、自動車産業の技術マネジメントを学ぶことを目的としており、MOT（技術経営）関連科目群の系統的履修の出発点として経営管理特論を配置している。ここで経営管理の意味するところは、技術開発や生産現場で求められる技術経営に関する組織能力の構築や運営である。このことを明確にすべく、講義では自動車の産業や企業のマネジメントを積極的に取り上げるようにしている。

現在ダイナミクス分野等から5名、社会科学分野では在学生全員（3名）が履修しており、受講生の多い科目となっている。今後、この講義の教育効果を把握した上で、分野名称等を検討する。

(21)

・「経営管理特論」は、社会科学分野でMOT（技術経営）を学ぶための科目として開講されており、狭義の企業経営の管理原則や技法について解説的な講義をすることよりも、むしろその背後にある経営の本質を明らかにすべく講義が行われている。講義では自動車会社を事例として多く取り上げつつ、会社制度とガバナンス、イノベーションのための組織と技術の管理などについても踏み込んだ講義が行われた。受講生は社会科学分野の学生のみならず、先端材料分野等の理工系学生からもあり、企業の経営に関する専門知識を修得したいとする意欲が強く表れていた。理工系学生が初めて社会科学系の経営学科目を受講する機会となっており、オートモーティブサイエンス専攻ならではの文理両棲型の科目配置として重要であると考えている。また、本科目は企業戦略マネジメントやイノベーション・マネジメント等を学ぶために不可欠な経営の原理を修得する科目として位置づけている。一方、本科目群にはマクロ経済分析を中心とする経済学系の科目も配置されている。このため、これらの科目群を総称して「経営管理分野」とするには広義であるため、「社会科学分野」として考えたい。(22)

・「社会科学分野」、「経営管理分野」のいずれにおいても、演習ではなく基礎理論・数量分析にかかわる講義科目として、配置及び充実を検討すること。

・ご指摘のとおり、社会科学分野ではオートモーティブの戦略的な技術経営を理解するための「基礎理論」及び自動車の環境・エネルギー問題を解析するための「数量分析」の基礎が必要である。

このため、戦略的な技術経営の基礎を学ぶ「企業戦略マネジメント（1後）」において、技術と戦略の関係を理解できるよう基礎理論の充実を図る。また、「エコロジーの経済学（2前）」において、環境税や排出取引などをめぐるミクロ経済的な数量分析を講義に取り入れる。(21)

	<p>・上記記載の「企業戦略マネジメント」及び「エコロジーの経済学」において、基礎理論及び数量分析を講義に取り入れた。具体的には、「企業戦略マネジメント」では、自動車開発の具体的な事例分析を行い、企業の技術戦略や技術をめぐる開発競争とその戦略などを組み込みながら、技術、経営、戦略の本質とその相互関係の理解を促す講義を展開した。また「エコロジーの経済学」では、マクロ経済学の数量分析を用いて、環境規制の効果、排出ガスと経済効果など実証データに基づく講義を展開した。(22)</p>
<p>・異分野の総合化を目指す学府の教育・研究理念を表す共通の研究テーマを策定し、その遂行を可能とする日常の学内FDの具体的な制度設計について検討すること。</p>	<p>・異分野の知の統合を図るべく、オートモーティブサイエンス専攻では全分野の院生が参加して英語での発表が展開される「国際コミュニケーション演習」を設けているが、この演習指導は専攻の教員が参加して行われるものであり、学生と教員がともに異分野の最新の研究成果を共有する場となるので、この演習の充実を図ることを検討したい。</p> <p>更に教員の教育と研究の質の向上を図るべく、オートモーティブサイエンス・コンソーシアムを全教員および近隣大学や自動車産業研究者と組織し、定期的に研究集会を開催して、研究成果の発表や先端的な研究知見の共有化を図る計画を進めている。(21)</p> <p>・国際コミュニケーション演習では、修士課程及び博士後期課程の学生が全員参加し、各自の研究成果を英語で発表した。指導教員も全員参加し、英語による研究指導やコメントがなされた。本演習を通じて、院生のみならず教員もオートモーティブサイエンスの異分野の研究について相互に理解を深めることができた。教員にとっては、異分野の研究を英語を通じて知ることができたばかりでなく、教員の英語力の向上への強い動機付け効果が得られた。</p> <p>また、教員の教育と研究の質の向上を図るため、平成21年度にオートモーティブサイエンス・コンソーシアムを組織した。本コンソーシアムの会長にはトヨタ自動車(株)取締役副会長の岡本氏が、副会長にはトヨタ自動車九州(株)社長・(株)ダイハツ九州会長・日産自動車九州工場長・本学理事が就任している。平成21年12月開催のコンソーシアム(正式発足前のプレイベント)では、次世代自動車技術とそのための人材育成を展望し、本専攻の学生によるインターナショナルの報告及び自動車メーカー5社によるパネル討議を行った。そして、平成22年3月に正式にコンソーシアムを発足させ、自動車産業の未来像や自動車産業が今抱えている社会的・技術的課題を様々な角度から討議し、共通認識を深めるため、本専攻各分野の教員による研究発表を行った。今年度からは、本専攻の5つの分野が各々開催する</p>

		<p>「分野会合」及び全分野が集う「全体会合」を定期的に開催することになっている。</p> <p>本専攻では、「国際コミュニケーション演習」及び「オートモーティブサイエンス・コンソーシアム」を基軸とし、異分野の総合化を目指す学府の教育・研究理念を体現していく。(22)</p>
	<p><オートモーティブサイエンス専攻 (D)></p> <p>・教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開設時までに確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>・科目開設までに専任教員を配置するべく、新規人事を含め検討中である。(21)</p> <p>・科目開設までに専任教員を配置するべく、引き続き新規人事を含め検討中である。(22)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (21年1月)</p>	<p>該当なし</p>	

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<統合新領域学府 ユーザー感性学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①修了要件単位数</p> <p>修士課程 36単位以上</p> <p>1) 特別研究(1)及び特別研究(2) 2科目6単位 2) ユーザー感性学基礎 2科目4単位 3) PTL及びインターシップ 3科目6単位 4) コース専門科目 自コース専門科目から5科目10単位 5) 専攻内科目及び専攻外科目のうちから5科目10単位 (ただし、専攻外科目は、3科目6単位までを修了要件単位に含めることができる。)</p> <p>② 施設・設備</p> <p>a 講義室・演習室</p> <p>講義室・院生ゼミ室：7室 (385m²) 旧工学部本館1階、2階、3階</p> <p>準備室：1室 (20m²) 旧工学部本館2階</p> <p>b 自習室</p> <p>院生研究室：3室 (75m²) 旧工学部本館2階</p>	<p>①両専攻にまたがる共通科目(必修科目：1科目1単位)を開講したことに伴い、修了要件を変更した。</p> <p>修士課程 36単位以上</p> <p>1) 学府共通科目 1科目1単位 2) 特別研究(1)及び特別研究(2) 2科目6単位 3) ユーザー感性学基礎 2科目4単位 4) PTL及びインターシップ 3科目6単位 5) コース専門科目 自コース専門科目から5科目10単位 6) 専攻内科目及び専攻外科目のうちから9単位 (ただし、専攻外科目は、6単位までを修了要件単位に含めることができる。)</p> <p>② 学生の修学環境を改善するため、当初予定していた校舎(旧工学部本館)を変更し、旧工学部5号館の5階から7階をユーザー感性学専攻専用として確保した。 なお、以下の理由により、講義室・院生ゼミ室の部屋数が7部屋から5部屋に減少することになったものの、学生の教育研究に必要な居室面積は十分に確保している。 ・利便性を考慮して講義室2室の間の壁を撤去した。 ・院生ゼミ室に割り当てていた1室をオートモーティブサイエンス専攻学生の研究室とした。</p> <p>講義室・院生ゼミ室：7室 (385 m²) 5号館5階、6階、7階 旧工学部本館1階、2階、3階</p> <p>準備室：1室 (20m²) 旧工学部本館2階 5号館5階</p> <p>院生研究室：3室 (75m²) 4 228 旧工学部5号館7階 3室 (75m²) 旧工学部本館2階</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

九州大学では、全学的な組織として「全学ファカルティ・デベロップメント（FD）委員会」が設置されており、本学府からも委員を選出している。

一方、本学府では、FD委員会という形での委員会は設置していない。これに代わるものとして、学府では「学府長・専攻長会議」を定期的に行い教育内容に係る協議を行うと共に、各専攻においても独自の取り組みを行っている。

ユーザー感性学専攻においては、教育の質の向上を図るため、専攻運営会議を開催し諸課題への対応策を協議すると共に、教員と学生との合同懇談会（ラウンドテーブル）を定期的に行い、ユーザーである学生の意見や要望を教育研究活動に反映していく体制を構築している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

学府長・専攻長会議：10回程度（学府長及び専攻長2名が参加）

専攻運営会議：随時（2ヶ月に1程度。毎回半数以上の教員が参加。）

c 委員会の審議事項等

○学府長・専攻長会議

- ・学府共通科目の内容、実施方法等
- ・インターンシップの実施方法

○専攻運営会議

- ・専攻の運営等
- ・合同懇談会（ラウンドテーブル）の開催
- ・入学試験の実施方法
- ・授業評価

② 実施状況

a 実施内容

○合同懇談会（ラウンドテーブル）

- ・PTL演習の実施方法
- ・インターンシップの実施方法
- ・専攻教育全般についての学生からの意見の聴取とそれへの対応
- ・修士研究の基本方針と指導の体制

○その他

- ・授業方法、コミュニケーションのスタイル
- ・授業評価アンケート
- ・教員相互の授業参観
- ・専攻の独自性や目標についての相互理解
- ・異なるコースの壁を超える相互理解のためのワークショップ

b 実施方法

- ・教員と学生との「ラウンドテーブル」として昼食を交えて、自由に話題を出し、それへの応答という形で進めた。
- ・授業については、オリエンテーションや共同演習の場で、教員相互にコミュニケーションのスタイル、授業の進め方などを参照し、互いの指導方法の特徴や癖についての気づきを得る機会を持っている。
- ・授業評価については、平成21年度は授業期間終了後に実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○合同懇談会（ラウンドテーブル）

- ・平成21年度3回（各回とも約15名の教員が参加した）
- ・平成22年度1回（18名の教員が参加した）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

当専攻のユニークな教育方法であるプロジェクト・チーム・ラーニング（PTL）について学生からの率直な反応を聞いて、授業負担の適切さ、複数のPTLの間での時間調整、事前のオリエンテーションで伝えるべき内容の拡充などの点で、修正を行い、次回の実施方法の改善に反映させている。

- （注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

（別紙のとおり）

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成23年5月1日 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係自治体、企業及び希望があった学生に各1冊を配布
- ・上記報告書の公表後、統合新領域学府のホームページ上においても公開（平成23年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・本学では、平成19年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けている。
- ・次回は、平成25年度に大学評価・学位評価授与機構の評価を受けるべく、学内で検討している。

- （注）・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

7 その他全般的事項

<統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど																														
<p>①修了要件単位数</p> <p>修士課程 38単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>1) オートモーティブサイエンス概論</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>2) インターンシップ</td> <td>1科目3単位</td> </tr> <tr> <td>3) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか</td> <td>4科目8単位</td> </tr> <tr> <td>4) 国際コミュニケーション演習</td> <td>1科目4単位</td> </tr> <tr> <td>5) 主分野概論科目</td> <td>1科目2単位</td> </tr> <tr> <td>6) 主分野専門科目</td> <td>12単位以上</td> </tr> <tr> <td>7) 主分野以外の分野の専門科目</td> <td>8単位以上</td> </tr> </table> <p>② 施設・設備</p> <p>a 講義室・演習室</p> <p>講義室・院生ゼミ室：6室 (471m²) ウエスト2号館、4号館</p> <p>準備室：1室 (52m²) ウエスト2号館</p> <p>b 自習室</p> <p>院生研究室：3室 (359m²) ウエスト2号館、4号館</p>	1) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位	2) インターンシップ	1科目3単位	3) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか	4科目8単位	4) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位	5) 主分野概論科目	1科目2単位	6) 主分野専門科目	12単位以上	7) 主分野以外の分野の専門科目	8単位以上	<p>①修士課程において、両専攻にまたがる共通科目（必修科目：1科目1単位）を開講したことに伴い、修了要件を変更した。</p> <p>修士課程 38単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 学府共通科目</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>2) オートモーティブサイエンス概論</td> <td>1科目1単位</td> </tr> <tr> <td>3) インターンシップ</td> <td>1科目3単位</td> </tr> <tr> <td>4) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか</td> <td>4科目8単位</td> </tr> <tr> <td>5) 国際コミュニケーション演習</td> <td>1科目4単位</td> </tr> <tr> <td>6) 主分野概論科目</td> <td>1科目2単位</td> </tr> <tr> <td>7) 主分野専門科目</td> <td>12単位以上</td> </tr> <tr> <td>8) 主分野以外の分野の専門科目</td> <td>7単位以上</td> </tr> </table> <p>② 学生の修学環境を改善するため、伊都地区に新たに「総合学習プラザ」を建設し、プラザ内にオートモーティブサイエンス専攻専用の講義室や院生研究室等を設けた（平成21年10月供与開始）。</p> <p>これに伴い、講義室・院生ゼミ室の面積が155m²減少したものの、当初の計画と同数の部屋数を確保し、更にオートモーティブサイエンス専攻専用の講義室等を確保することができたことで、適切な学生の教育研究を行うことができています。</p> <p>また、院生研究室については、従来の研究室に加え、総合学習プラザ及び箱崎キャンパス旧工学部5号館5階にオートモーティブサイエンス専攻専用の院生研究室を整備した。本専攻が整備していたこれまでの院生研究室は、既存の学府学生との混住であり、相互に刺激し合いながら知見を広めていく基盤を醸成していた。今回、これに加えてオートモーティブサイエンス専攻専用の院生研究室を新たに整備したことにより、本専攻の異なる分野の学生が集い、様々な角度から「オートモーティブサイエンス」を捉える環境を整えることができた。</p> <p>講義室・院生ゼミ室：6室 (471 m²) 総合学習プラザ ウエスト2号館、4号館</p> <p>準備室：1室 (52m²) 20 総合学習プラザ ウエスト2号館</p> <p>院生研究室：3室 (359m²) 6 452 総合学習プラザ ウエスト2号館、4号館 及び総合学習プラザ</p>	1) 学府共通科目	1科目1単位	2) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位	3) インターンシップ	1科目3単位	4) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか	4科目8単位	5) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位	6) 主分野概論科目	1科目2単位	7) 主分野専門科目	12単位以上	8) 主分野以外の分野の専門科目	7単位以上
1) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位																														
2) インターンシップ	1科目3単位																														
3) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか	4科目8単位																														
4) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位																														
5) 主分野概論科目	1科目2単位																														
6) 主分野専門科目	12単位以上																														
7) 主分野以外の分野の専門科目	8単位以上																														
1) 学府共通科目	1科目1単位																														
2) オートモーティブサイエンス概論	1科目1単位																														
3) インターンシップ	1科目3単位																														
4) オートモーティブサイエンス演習Ⅰ～Ⅳ又は 経営管理演習Ⅰ～Ⅳのいずれか	4科目8単位																														
5) 国際コミュニケーション演習	1科目4単位																														
6) 主分野概論科目	1科目2単位																														
7) 主分野専門科目	12単位以上																														
8) 主分野以外の分野の専門科目	7単位以上																														

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

九州大学では、全学的な組織として「全学ファカルティ・デベロップメント（FD）委員会」が設置されており、本学府からも委員を選出している。

一方、本学府では、FD委員会という形での委員会は設置していない。これに代わるものとして、学府では「学府長・専攻長会議」を定期的に行い教育内容に係る協議を行うと共に、各専攻においても独自の取り組みを行っている。

オートモーティブサイエンス専攻においては、教育の質の向上を図るため、専攻運営会議を開催し諸課題への対応策を協議すると共に、「オートモーティブサイエンス・コンソーシアム」を発足させ、産官学による連携体制を構築し、本専攻で行う教育研究活動に反映している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

学府長・専攻長会議：10回程度（学府長及び専攻長2名が参加）

専攻運営会議：随時（1ヶ月に1程度。毎回半数以上の教員が参加。）

c 委員会の審議事項等

○学府長・専攻長会議

- ・学府共通科目の内容、実施方法等
- ・インターンシップの実施方法

○専攻運営会議

- ・専攻の運営等
- ・オートモーティブサイエンス・コンソーシアムの開催
- ・入学試験の実施方法
- ・授業評価
- ・国際コミュニケーション演習の実施方法
- ・インターンシップの実施方法

② 実施状況

a 実施内容

○オートモーティブサイエンス・コンソーシアムの開催

○その他

- ・授業評価アンケート
- ・専攻の独自性や目標についての相互理解

b 実施方法

○オートモーティブサイエンス・コンソーシアム

- ・自動車に関する諸課題の解決を目指し、分野と産官学の垣根を越えた大きな知の結合を図るために、大学や企業・自治体、学生などが一同に集結する会合。平成21年度は、12月と3月の2回開催した。平成22年度以降は、本専攻の5つの分野が各々開催する「分野会合」及び全分野が集う「全体会合」を定期的に開催することになっている。

○その他

- ・授業評価については、平成21年度前期は最終講義終了後に、後期は各授業終了後に実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○オートモーティブサイエンス・コンソーシアム

- ・平成21年12月13日、福岡国際会議場にて開催

(財)日本自動車研究所・技監 堀政彦氏による基調講演、自動車メーカー各社によるパネル討議、本専攻大学院生のインターンシップ体験談を通じて、次世代自動車技術とその人材を展望。

・平成22年3月5日、ソラリア西鉄ホテルにて開催

東京大学 藤本隆宏教授による基調講演や本専攻各分野の教員による一般講演を通じて、自動車産業の未来像や自動車産業が今抱えている社会的・技術的課題を様々な角度から議論し、共通認識を深めた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本専攻には分野の異なる様々な教員が参画しており、文理両棲の性格を有している。オートモーティブサイエンス・コンソーシアムを開催することにより、企業等が抱えている諸課題を認識すると共に、教員間の研究活動に関する理解が促進され、学生の指導にも多面性を確保することが可能となった。このことは、「インターンシップ」や「国際コミュニケーション演習」など、本専攻が行う特徴的なカリキュラムの充実を図る上で効果的である。

また、本専攻の学生は各分野において異なるオートモーティブサイエンス研究を行っているが、学生が本コンソーシアムに参加することにより、「オートモーティブサイエンス」に対する多角的な視点を身につけることができ、併せて、諸課題に対する複合的なアプローチの重要性を認識することが可能となっている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成23年5月1日 公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、関係自治体、企業及び希望があった学生に各1冊を配布
・上記報告書の公表後、統合新領域学府のホームページ上においても公開(平成23年8月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

・本学では、平成19年度に評価機関(大学評価・学位授与機構)の評価を受けている。
・次回は、平成25年度に大学評価・学位評価授与機構の評価を受けるべく、学内で検討している。

(注)・設置認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表予定時期 (未公表の場合は予定時期) (年 月 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/office/somu-bun/hourei/establish.htm>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学府は、学問の細分化によって生み出された膨大な知を再編成し、統合的な新しい科学的な知や価値を追求して、現代の科学や社会の重要課題の解決に取り組むとともに、そのために必要とされる高度な専門的人材を育成することを目指し、平成 21 年 4 月に設置された。

第 2 回目となる平成 22 年度入学試験においては、ユーザー感性学専攻修士課程では定員 30 名に対して 70 名（前回 60 名）、オートモーティブサイエンス専攻修士課程では定員 21 名に対して 60 名（前回 31 名）が志願するなど、第 1 回目の入学試験に比べ志願者の大幅な増加がみられた。また、オートモーティブサイエンス専攻博士後期課程でも、定員 7 名を満たす入学者を安定的に確保することができている。

これは、「ユーザー感性学」及び「オートモーティブサイエンス」という学問分野への社会的関心及び認知度が高まっているためであり、当該分野の人材育成に係る本学府への期待の高さを表している。

入学者選抜は、分野間の公平性・透明性を確保するために、各専攻において書類審査及び口頭試問により実施した。また、受験生の本学府における学習意欲及び学部教育等を通じての専門的知識の習得度を基本的な尺度とした。これを踏まえ、ユーザー感性学専攻にあっては、社会や仕事の現場及び生活の現状を革新していこうとする問題意識と使命感の高い人材を、オートモーティブサイエンス専攻にあっては、自己の専門性を高めると同時に、関連する分野にも強い関心を持ち、次世代自動車社会の構築と問題解決に関する素養を有する人材を優先して選抜した。

また、優秀な学生を確保するために、留学生特別選抜や社会人特別選抜を実施した他、10 月入学の対応も図るなどの工夫も行った。

本学府に置かれる各専攻には、それぞれの特色を活かした授業科目が配置されているが、留意事項にあるご指摘のとおり、本学府が新たな知を開拓する大学院として高度な専門人材を養成していくためには、専攻にとらわれずに学生が交流し、協働環境を醸成することが重要である。このため、平成 22 年度から修士 1 年次を対象とした学府共通科目「科学の統合方法論」を必修科目として新たに前期に開講することとした。本科目では、本学府の設置趣旨を踏まえ、科学的な知の研究方法や知の統合のあり方に関して、科学的探求の仕組みとそのプロセス、異なる科学的探求の方法や知の転換・統合について講義を行うこ

ととしている。また、講義の中に演習形式を取り入れて学生の協働環境を整えることにより、学生が本学府において行う研究教育活動に関し、専攻の垣根を越えた交流と協力の基盤が構築されることが期待される。

[ユーザー感性学専攻]

平成22年度も昨年度同様に入学直後にオリエンテーションを2日間にわたり実施し、本専攻における開講科目や履修体系について説明すると共に、演習科目「ユーザー感性学PTL」において取り扱う研究テーマを決定した。

実社会での現実の課題に対し、その解決策にチームで取り組む「プロジェクトチーム演習（PTL）」では、課題を持つ企業・自治体等と協同して「河川環境におけるサイン提案」、「福岡・釜山交流ガイドブック作成」などの具体的な演習課題を設定し、教員指導のもと学生がその課題に関する検証、課題解決への提案、事後の検証等を行うことで、課題解決までのプロセス等をより実践的に習得できた。平成22年度も、引き続き、「リハビリ病棟における自由時間の使い方」、「大橋地区の魅力創出プロジェクト」などの具体的なテーマを計画中である。前年度のPTL実施に係る検証の結果、平成22年度は、課題解決までのプロセス等を習得することを目的して、チームビルディング、プロジェクトマネジメント等、PTLに関連したオリエンテーションとして2回実施した。

また、学生が本専攻において取り組む研究テーマを見極め、教員の今後の適切な研究指導に繋げていくため、指導教員は7月に決定するなど、学生の修学及び教員の研究指導に関する工夫を施している。平成21年度も同様の対応を図ったが、学生が時間をかけて自分の研究テーマにマッチした指導教員を選択できるなど、高い評価を得ており今年度も継続して実施している。なお、本専攻では、各学生に主指導教員・副指導教員を配置することにより、多様で重厚な研究指導を行うこととしている。

平成21年度、本学で実施している院生や学生が自ら企画するユニークな研究・調査プロジェクトをサポートする事業（チャレンジ&クリエイション（学内公募））に本専攻学生が応募したプロジェクトが2件採択されるなど活発な研究活動等も行われた。

加えて、本専攻においては多用な専門性と背景を持った人材を受け入れることとしており、現に職を有している社会人学生が多いため、「長期履修制度」を整備し、確実に就学できる体制・環境を整備した。その結果、平成21年度社会人入学者12名うち4名、平成22年度社会人入学生9名のうち3名が本制度を利用するなど社会人の就学体制・環境整備の充実を図っている。

[オートモーティブサイエンス専攻]

平成 22 年度も昨年度同様に入学直後にオリエンテーションを実施し、本専攻における履修体系及びカリキュラムについて説明した。また、学生の多様なニーズに応えるため、学生が希望する研究テーマに基づき指導教員を決定した後、指導教員による個別の履修指導を随時行っている。

本専攻では、企業の現状や将来展望と学生自身が本専攻において行っていく研究活動等を直接的にリンクさせ、「企業」を意識した教育研究活動を展開させるため、授業開始直後に、主要自動車会社の重役技術者を講師として招き、自動車社会が抱える問題点や今後の展望に関する講義を修士課程及び博士後期課程の必修科目として実施している。平成 22 年度は、トヨタ自動車及び日産自動車に加え、本田技研工業からも講師を招くことができ、授業科目の充実を図ることができた。

また、平成 21 年 8 月又は 9 月に、トヨタ自動車、日産自動車、本田技術研究所、マツダ、ダイハツ九州などに 25 名の修士課程の学生を派遣し、3 ヶ月間のインターンシップを実施した。インターンシップでは、指導教員のもと学生が企業において行う研究テーマを企業と相談の上事前に設定し「企業現場」を体験した。インターンシップが終了した後、受入企業と本専攻教員との間で会合を開催し、課題等について整理した後、次年度の実施方法等について協議を行った。また、平成 22 年度はインターンシップの充実を図るため、平成 21 年度に学生を派遣した企業に加え、受け皿となる受入企業の拡大を目指し、目下、様々な企業との間で協議を行っているところである。なお、インターンシップの実施に伴い、平成 21 年度後期は 11 月末から授業を開始することとしたが、後期科目はクォーター制や集中講義で開講するなどの対応を図り、学生の修学が計画どおりに円滑に行われるように配慮した。

その他、本専攻の学生が一堂に会して実施した「(上級)国際コミュニケーション演習」では、全学生が本専攻で行っている研究活動を英語で発表する場を設けた。英語による研究発表を初めて行った学生も多数見受けられたが、本演習において、英語力のみならずパワーポイントを活用したプレゼンテーションスキルについて学ぶなど、国際社会に求められる能力の養成を図った。

このように、本学府においては、設置の趣旨を十分に踏まえ、各専攻の特色を活かしつつ目的を達成するために様々な取り組みを行っている。今後も設置計画を踏まえ、本学府における教育研究の質の向上を図っていきたい。